



# 銭湯で心も体もポカポカに！

生活に欠かせない存在として地域に根付く公衆浴場（銭湯）。最盛期の1970年代には市内に約120軒ありましたが、昨年11月現在で14軒にまで減っています。体を温めるだけではない銭湯の魅力を知り、足を運んでみませんか？

【詳細】衛生検査課 25・5324



男湯は富士山のタイル絵⊙

⊙フタバ湯ではサウナも楽しめる

昭和レトロも魅力！  
身近な「非日常」



若者代表  
“銭湯愛好家”

週2回以上は、近くの銭湯に通っています。

旭川浴場組合のスタンプラリーも制覇し、市内には個性豊かな銭湯があることを知りました。

大きな浴槽で足を伸ばして疲れを取る、サウナで普段かかない汗を流すという良さはもちろん、地域に根差した銭湯の魅力は、他にもあります。

平成生まれの私にとって、昭和レトロな雰囲気は新鮮です。昔ながらの広告看板や木製のロッカーが残っていて、番台の方と言葉を交わすこともできます。友人と一緒にいるときは、思い出や将来、仕事のことなど、銭湯だからこそ話が弾みます。1人入るときは、無心でリラックasできるの、しっかりとオンとオフを切り替えられます。これは、シャワーで済ませがちな自宅では、なかなか体験できません。

銭湯は昔よりも減っていると聞きますが、私にとっては日常圏内にあるのに非日常が味わえる、大切なコミュニティです。皆さんにも近くの銭湯にふらっと足を運んで、魅力に浸かってもらいたいです。

銭湯の個性は様々。  
若者にもPR  
したいです



旭川浴場組合組合長  
菊の湯店主  
くまがい きよし  
熊谷清志さん

銭湯は地域に密着しているの、いざというときに駆け込めて、見守りもできる存在でありたいです。

組合では、旭川市と2つの協定を結んでいます。1つは、災害時に避難者の受け入れや生活用水・お風呂の提供などの協力を行う「防災協定」。もう1つは、高齢者の異変などを発見したときに、必要に応じて関係機関に連絡する「地域見守り活動協定」です。

最近では、サウナ目的の若者が増えている銭湯もあります。新しい取り組みで魅力を発信し、若い人の利用を増やしたいです。今年4月から混浴年齢が引き下げられますが、子供1人でも入りやすい銭湯もありますし、子供への声掛けを徹底したいです。

毎年、市内などの銭湯を巡るスタンプラリーを実施していて、好評です。他にも、各浴場での回数券の販売や子供が無料になる日など、色々な企画を検討しています。

銭湯それぞれに個性があり、元気にのれんを掲げています。ぜひお気に入りを見つけてください。

スタンプラリーの景品は、入浴券や貴重品袋、レトロな黄色い桶など⊙



## 混浴できる年齢が変わります

条例の改正により、銭湯やスーパー銭湯といった公衆浴場では、混浴できる年齢が引き下げられ、10歳未満から7歳未満になります。

4/1(土)  
から

お近くの銭湯は  
こちら→

